



まちの話題

特集

タウン誌ピックス

HOOTーく

情報ピッナップ

市政リーダー

インフォメーション

おでかけ相談

はぐくみ

街かどレポート

まちの話題

新聞アートで遊ぼう！（6月25日）



芸術家や教育関係者が集うグループ「Fog Arts Project」がたき認定こども園を訪れました。同会はアートと遊び、学びを結びつけることで、子どもたちの創造力や思考力、「生きる力」を育むことを目的に活動しています。

今回のテーマは新聞紙。子どもたちは、新聞紙をちぎったり丸めたり、被ったりと思い思いに遊び、「新聞紙で遊べて楽しかった。またしたい」と嬉しそうに話しました。

今年度は試行期間で、たき、こんだ認定こども園で実施します。

丹波篠山黒豆ナイター開催（7月7日）



ZOZOマリンスタジアムで「丹波篠山黒豆ナイター」が開催されました。今回、ファーストピッチに登場したのは、味間少年野球団の中山愛来さん。投球権贈呈式での「ストライクを投げたい」という宣言通り、まっすぐミットに投げ込みました。

もしもに備えてー（7月5日）



震度6弱の地震発生を想定した総合防災訓練が岡野地区で行われました。各自治会公民館への避難を経て、228人の参加者が岡野小学校に集合。防災井戸からの給水や炊き出し支援などを行ったボランティアセンター設営訓練や、自衛隊による埋没車両救出訓練などを通じて防災への意識を高めました。

篠山産業高校生がトンボ寄贈（6月27日）



篠山産業高校電気建設工学科建設コースの生徒10人が、授業の一環で製作したグラウ

ンド整備用のトンボ4本を公民館へ寄贈しました。製作に携わった中澤凌駕さん、牧野奏介さん、大坪渚希さんは、「授業で学んだ加工技術を生かし、一つひとつ丁寧に製作しました。このトンボが地域の皆さんの役に立ち、長く活用していただけたらうれしいです」と話しました。



ANAグループが黒大豆移植作業を体験（6月17日）

ANAグループ労働組合に所属する社員10人が、いずみ営農組合のほ場で、丹波黒大豆の苗植えを実施しました。

これは地域貢献活動の一環として、（株）小田垣商店との協同で約5年前から始まりました。当日は、客室乗務員や整備士ら社員の皆さんが営農組合の皆さんとともに、成長した苗を移植機を使って一本ずつ丁寧に植え付けました。

黒大豆苗植え最盛期（6月23日）



黒大豆の植え付け作業が最盛期を迎えたこの日、細見秀司さんと正子さん夫妻（県守）のほ場でも、黒大豆の植え付け作業が行われました。今年は70アールを手掛ける細見さん。10cmほどに育った苗を移植機を使って、息を合わせてテンポよく植え付けていきました。

認定農業者の認定書授与式（6月12日）



森田洋文さんが新たな認定農業者に認定されました。営農作物は水稻や黒大豆などが中心で、ドローン防除の請負会社の経営もされています。森田さんは「地域の農業をサポートしながら、消費者の方に“おいしい”と喜んでもらえるような農業経営をめざしたい」と意気込みを話しました。

消防団ポンプ操法大会 日頃の訓練の成果を披露（6月21日）



市内21分団の消防団員が参加する「操法大会」が、ユニトピアささやま駐車場で開催されました。大会では、各分団の選手たちが、指揮者の号令のもと、息のあった動きでホースの延長やポンプ操作などを正確・迅速に行い、日頃の訓練の成果を披露しました。小型ポンプの部では第18分団（城南）が、ポンプ自動車の部では第6分団（後川）が見事優勝。小型ポンプ自動車の部の第18分団は、7月12日に三木市で開催された県大会に出場しました。

また、会場には水消火器を使った体験コーナーも設置。子どもたちは、女性消防団員の指導を受けながら、消火訓練に取り組み、防火への理解を深めていました。

わが家のアイドル
募集中です！
申し込みはこちら



わが家のアイドルを紹介します

みやわきせい わ
宮脇星羽ちゃん
1歳(吹上)

生まれたころからお喋りが大好き！みんなで一緒に笑って過ごそうねー！



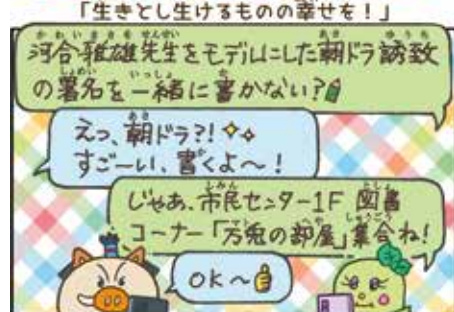
IDOLinmyfamily

やすはら れ な
安原蓮夏ちゃん
11カ月(宮田)

ニコニコ笑顔が可愛い
れなちゃんです！いつも
ママパパの後をニコニコ
追いかけて来ます！



きょうもまいるいぬ!120



★オンライン署名はこちら



ふるさとの貴重な動植物

マタタビ(マタタビ科)



緑の林縁を眺めていると、白い葉が点々と見ることがあります。それがマタタビで、離れていてもよく目立ちます。花期は初夏で、葉の裏側を覗き込むと、白い花が下向きに咲いています。

「猫にマタタビ」の言葉でよく知られるように、猫に不思議な行動を誘引する植物として江戸時代の浮世絵にも描かれました。この猫の行動は、植物に含まれる蚊の忌避成分を体に塗りつけているということが2021年に明らかになりました。岩手大学などの共同研究で、「ネペトラクトール」と呼ばれるその成分だけを含んだ紙を与えても、猫は顔や体に擦り付けたそうです。

自然界にはまだまだ未知の現象がたくさんありそうです。

篠山自然の会 原田健一さんの協力

「アグリステーション丹波ささやま」で子育て支援拠点事業を開催(7月3日)



【一般社団法人 アグリステーション丹波ささやま】

●開館時間=水・木・金・土11:00~16:00

※土曜日は不定期。

カフェ営業時間は14:00まで。

木曜日は11:00から17:00まで。

●問い合わせ ☎556-5997

イベント情報
はこちら



4月に地域子育て支援拠点として開所した「アグリステーション丹波ささやま」は、「子育てを一人で抱え込まなくていい」と感じられる地域の居場所をめざしています。日本語の美しい響きに親しむ絵本の読み聞かせや、外国人スタッフによる英語の読み聞かせなど、日本の文化と世界を身近に感じられるプログラムを毎月開催。この日は、七夕をテーマに、絵本やわらべうた、短冊づくりを楽しみました。親子だけでなく保護者同士も自然と会話が生まれ、「また来たい」と笑顔があふれる温かな時間となりました。

8/30(日)
13:30~15:30

環境推進大会を開催します

問い合わせ

農村環境課 ☎552-6253

長年にわたり環境委員を務め、地域の環境美化などのリーダーとして活躍された方に表彰を行います。また、丹波新聞社の記者・森田靖久さんに丹波篠山の野鳥と自然環境についてお話しいただきます。環境委員を対象とした大会ですが、一般の方もご参加いただけます。

ところ 丹波篠山市民センター

内容 丹波篠山市環境推進協議会会長表彰

特別講演「丹波篠山のかわいい

野鳥たちと自然環境」

講師紹介

森田靖久さん(新聞記者)

市政からまちネタまで、幅広く地域取材し、“井戸端会議の主役になれる”ような話題を提供する。近年は記事のネット配信も担うほか、「丹波新聞鳥部」として野鳥撮影に没頭。ネットを中心に人気を呼び、2025年には初のフォトブックを出版している。



2007年 丹波新聞社入社
2018年 ネット配信業務を担当
2020年 野鳥撮影をスタート。ヤフーニュースのコメント欄より読者に「鳥部」と命名される
2025年 「丹波新聞鳥部フォトブック いつも、いつまでも。」を出版

全国アマチュア映像コンテスト
第38回 丹波篠山映像大賞

TAMBA SASAYAMA
VIDEO GRAND PRIX

未来へつなぐ映像作品を
全国から募集中!!

創造力溢れる作品の
応募をお待ちしています

作品テーマ
いまを未来へつなぐ

募集期間
8.1土 → 11.30月(必着)

大賞賞金
10万円(ほか)

応募資格
アマチュア(映像制作を職業としていない方)

応募用紙のダウンロード
など詳しくはこちら

問い合わせ/申し込み 視聴覚ライブラリー ☎590-1301

Enjoy 丹波篠山♪
ショートムービー
アワードの作品も
募集しています!